

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

18573

環境教育推進事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	2	郷土を愛するふるさと教育の推進

事業区分(1)	事業経費		管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	教育費		
	項	教育総務費		
	目	教育振興費		
	大事業	教育振興事業		
	中事業	環境教育推進事業		

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel 学校教育課 西谷 宣昭 435-1196
事業実施の根拠法令			関連課	

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	和歌山県内の小中学生を対象に、森林や林業に触れる機会をつくり、環境問題への関心を高め、森林を守り育てる意識を育む。		学習指導要領においても、体験活動の充実が一層求められており、林業現場を体験することで環境問題への関心を高め、森林を守り育てる意識を育む。			
事業内容	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	
	森林組合に、森林の働き、林業の概要の説明、林業体験を委託している。 ①体験学習に備えた予習としての事前授業 ②森林や山村へ出かけ森林・林業に関する体験学習 ③体験後の復習としての事後学習	森林組合に、森林の働き、林業の概要の説明、林業体験を委託している。 ①体験学習に備えた予習としての事前授業 ②森林や山村へ出かけ森林・林業に関する体験学習 ③体験後の復習としての事後学習	森林組合に、森林の働き、林業の概要の説明、林業体験を委託している。 ①体験学習に備えた予習としての事前授業 ②森林や山村へ出かけ森林・林業に関する体験学習 ③体験後の復習としての事後学習	森林組合に、森林の働き、林業の概要の説明、林業体験を委託している。 ①体験学習に備えた予習としての事前授業 ②森林や山村へ出かけ森林・林業に関する体験学習 ③体験後の復習としての事後学習	森林組合に、森林の働き、林業の概要の説明、林業体験を委託している。 ①体験学習に備えた予習としての事前授業 ②森林や山村へ出かけ森林・林業に関する体験学習 ③体験後の復習としての事後学習	

2 事業コスト

事業費等(千円)	令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度		令和07年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	25,869	22,529	26,369	24,680	26,804	27,319	31,247	0	31,247	0
伸び率(%)	△0.1%	11.8%	1.9%	9.5%	1.6%	10.7%	16.6%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	4,810	4,810	4,905	4,905	4,950	4,950	4,950	0	4,950
	正規職員以外	0	0	0	0	0	1,039	1,829	0	1,829
	小計	4,810	4,810	4,905	4,905	4,950	5,989	6,779	0	6,779
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	25,869	22,529	26,369	24,680	26,804	27,318	31,247	0	31,247	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
所要人数(人)	正規職員	0.62	0.62	0.63	0.63	0.63	0.63	0.63	0.00	0.63
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.46	0.81	0.00	0.81
主な予算内訳	委託料15,690千円、消耗品費 2,600千円、自動車借上料8500千円等									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	体験学習実施校数	校	目標値	45	46	47	47	47
			実績値	45	46	47		
			達成度(%)	100%	100%	100%	%	%
成果指標	体験学習参加者数	人	目標値	2400	2400	2400	2400	2400
			実績値	2361	2502	2598		
			達成度(%)	98.38%	104.25%	108.25%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	和歌山県農林水産部森林・林業局森林整備課と和歌山県教育委員会の連携による委託事業であり、現行のまま実施したい。
見直し・改善内容	体験後には、森林新聞等で学んだことをまとめ発表できている。間伐材の有効利用等にも目を広げる取り組みにしていきたい。